

令和7年度 学校経営計画報告書（自己評価）

学校番号	24	学校名	静岡県立伊豆の国特別支援学校	校長名	松本 仁美
------	----	-----	----------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

【安全・安心】 命と健康を守り、人権を尊重し、一人一人を大切に作る学校

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
安全・安心①	生命の尊さや人とのつながりを大切にし、一人一人の良さを受け入れ、互いを思いやる心の醸成	・各学部の経営計画に基づき、児童生徒の命が守られていると答える教職員や保護者 (AB100%)	・児童生徒の命を第一に考え、一人一人の気持ちを受け止める支援の充実	B	・危機管理マニュアルの見直しに、防災安全課員を中心に、多くの教職員がかかわったことにより、命を守ることを自分ごととして、意識する教職員が増えた。
		・思いやりと感謝の気持ちをもてる教職員に向けて、自身の行動を振り返ることができた教職員 (AB100%)	・人権感覚を高め、声を掛けやすい雰囲気や教職員の不祥事のない組織	B	・人権チェックシートで、教職員が、毎月自分自身を見つめ直したことにより、児童生徒の人権を大切に思うことができた。書類の受け渡しの確認不足があったので、コンプライアンス通信等で注意喚起する。
安全・安心②	命のつながりを実感する食育の推進	・給食室と連携し、安全な給食と食育の推進ができた教職員及び保護者 (AB100%)	・季節感があり、健康で丈夫な体をつくる食材の選定と、個に合わせた給食の提供	A	・形態食や柔らか食など、多くの児童生徒が楽しく給食を食べることができた。地産地消の献立やその紹介が工夫されていた。
		・食と各教科等に関連ができた教職員 (AB90%)	・地域の産物や生食、産者の特長等6つの食育の視点を意識した食育の実践	B	・栄養教諭と給食主任が連携し、食育の授業に取り組み、食への興味関心の意識が高めることができた。
安全・安心③	児童生徒の命を守る安全教育の充実	・防災学習や防犯訓練を自分自身で守る方法を学んだ児童生徒及び教職員 (AB80%) ・緊急時に、迅速かつ適切な対応ができた教職員 (AB90%)	・実効性の高い訓練方法を探るとともに、緊急時において、主体的に行動できる実践力の育成 ・ヒヤリハットの迅速な報告と共有及び今後にかす取組	B	・児童生徒が自分で身の安全が確保できる（防犯、防災）訓練を行なうことができた。 ・警察官や消防署員に訓練に立ち会ってもらい、迅速且つ適切な対応方法を指導してもらった。

【専門性】 確かな力を積み上げ、一人一人の良さを引き出す学校

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
専	主体的・協働的・深い学びによって、資質能力を育成す	・児童生徒の学びを見取り、適切な目標設定と評価ができた教職員 (AB85%)	・授業研究会による学び合う校内研修の工夫と、授業力の向上	B	・近隣の小中学校からの参加者と共に学び合い、授業力の向上につなげることができた。

様式第3号

門性 ①	る授業実践	・児童生徒の興味関心や解決したい課題についてチームで検討し、学習者主体の授業づくりを進めた教員	・目指す児童生徒の姿を踏まえ、各教科等指導指し、授業改善	B	・個を全体に広げるまでは難しかったが、各教科等を合わせた指導の授業実践を行ったことで、児童生徒が成果を自身が感じることができた。
	専門性 ②	特別支援教育の専門性の向上	・障害の特性に応じた支援や学習指導に基づく研修ができた教員 (AB90%)	・児童生徒の実態や障害特性に基づくための校内研修の充実	B
			・PCやタブレット等の活用により、授業準備の効率化や学習の定着に効果を得た教員 (AB85%)	・PCやタブレットによる主体的な学習の推進	A

【連携】 保護者や地域と連携し、児童生徒の社会参加を目指す学校

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
連携 ①	キャリア教育の視点で小中学部、高等部のつながりと、児童生徒の願いや夢を大切にしたい進路指導の充実	・小中高の系統性を意識して指導できた教員 (AB80%)	・なごのプランを基に、児童生徒の実態と将来を見据えた指導の充実	A	・教員の学部間交流を積極的に行ったことで、12年間を見越した支援を考えるきっかけとなった。実際に見ること、児童生徒と接する機会を多く設定していく。
		・児童生徒に応じた適切な情報提供や、進路指導ができたと答える教員及び保護者 (AB80%)	・児童生徒の願いや夢を叶えるための地域社会の幅広い情報の提供の充実	A	・将来を見据えた「今」を考えて、小学部段階から保護者への懇談会等で、情報提供することができた。 ・情報をまとめた資料を作成して、どの学部でも共有できるようにしていく。
連携 ②	地域住民との協働を推進し、地域と共に歩む学校づくり	・各学部において、適切な交流を計画し、地域に貢献できたと感じる教職員 (AB80%)	・児童生徒及び教職員が地域に貢献し、地域で活躍できる場や環境の設定	A	・地域での活動が増えているので、引き続き地域を意識した授業を考えていきたい。 ・ボランティア活動を活用して、授業に参加してもらうことが増えた。
		・地域を活用した学習活動を通して、児童生徒が意欲的に学ぶ機会を確保したと感じる教職員及び保護者 (AB80%)	・地域の自然や歴史、産物等に触れ、地域の良さを感知する地域活動の充実	A	・地域を学習の場として、多く計画したことで、教員、児童生徒も協働の学びの場を授業の中で、多く設定することができた。

【チーム学校】 教職員が主体的に学校づくりに参画する学校

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
チーム学校①	特別支援学校のセンター的機能の充実及び関係機関との連携の強化	・センター的機能による成果の整理及び検証（毎学期）	・支援要請に対し、迅速且つ適切な相談と継続した支援の実施	B	・コーディネーターを級外として2人体制としたことで、迅速に対応することができた。継続しての依頼が増えている。
		・学校内外の情報共有と、支援会議やケース会議等での案件の整理及び成果の検証（毎学期）	・外部関係諸機関との連携と、迅速で丁寧につなぐ支援体制づくり	B	・教員一人一人が、外部機関のことを理解する体制づくりが課題である。 ・部主事、地域連携課を中心に、外部機関との連携と丁寧につなぐ支援体制づくりができてくる。
チーム学校②	教職員一人一人が責任をもった業務遂行と、やりがいを感じる働き方の推進	・キャリアステップと自己評価に基づき、自身の役割や学年の運営に携わった教職員（AB80%）	・教職員一人一人が、業務に責任をもち、学部の経営への参画の意識の醸成	B	・学部や学年での行事の計画や施方法について、教職員一人一人が業務に責任をもったことで、学校経営参画への意欲向上につながった。組織として参画できると良かった。
		・計画的な業務遂行のため、働き方を改善できた教職員（AB70%）	・学部及び分掌、事務部の業務内容の精選と、教職員一人一人のタイムマネジメント等働き方の意識改革	B	・毎週金曜日を提示退勤日としたことで、タイムマネジメントを意識して、働く教職員が増えた。